

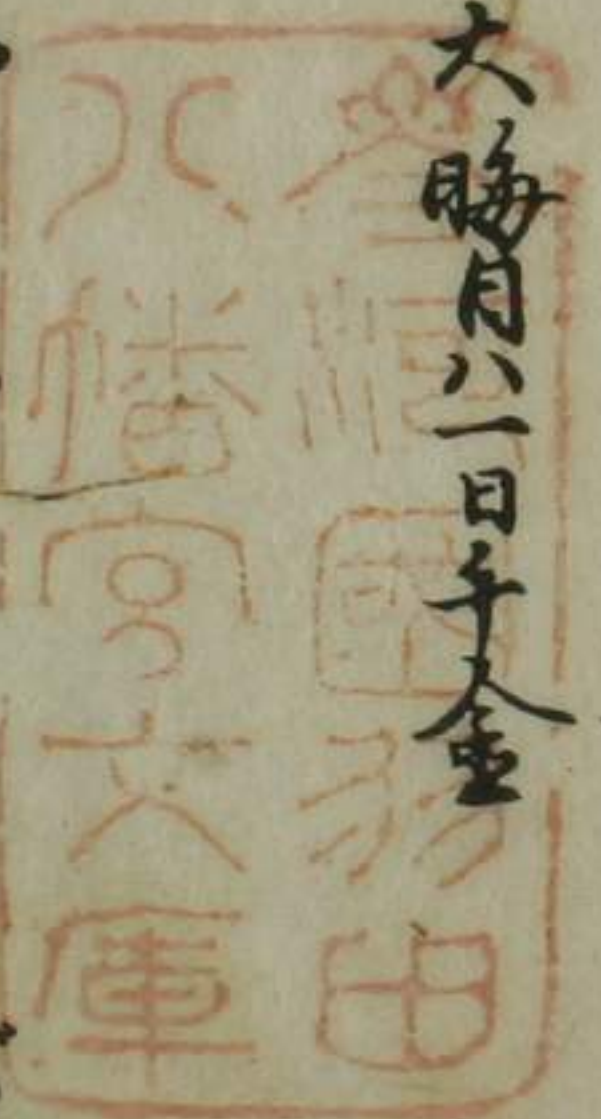
13
1601
3



鳥田文庫

鳥田文庫

大晦月二日午金



卷三



一

部此類見をき居

○それくのはきし
○大晦りの編をいづき也

二

餅これのほのほめ

○餅をよきうりや
○大晦りにするは

三

小判こばんのすりありす

七回しちかいのすりはすりりすりり

六回むいかいのすりはすりりすりり

四

神かみはかみりり

肉にくはかみりり

肉にくはかみりり

一 排はいれりのりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

今日けふのりりり

此書(抄)を記しりるるに銀十枚の積合せ二行とらるる
程(ほど)のありのるるまの程をつとて攝(しやく)摩(ま)川(がわ)極(ごく)和(わ)を
に抄(しやく)理(り)の同(どう)くは(は)実(じつ)を(ま)舞(ま)花(か)よ(よ)折(せ)り(り)の(の)ま(ま)子(こ)は(は)乃(の)
積(せき)安(あん)下(げ)戸(こ)谷(や)を(を)は(は)け(け)割(わり)首(うぶ)の(の)枚(まい)十(じゅう)桶(ぼく)に(に)字(じ)活(かつ)格(かく)を(を)
川(がわ)と(と)書(か)し(し)て(て)な(な)く(く)醫(い)者(しや)と(と)書(か)し(し)て(て)儒(じゆ)者(しや)と(と)書(か)し(し)て(て)厚(こう)和(わ)金(きん)連(れん)珠(じゆ)師(し)
を(を)入(い)り(り)申(まを)す(す)る(る)に(に)流(りゅう)が(が)れ(れ)揚(あげ)金(きん)買(か)い(い)の(の)大(だい)宿(しゆく)
初(はつ)ま(ま)た(た)れ(れ)る(る)事(こと)社(しゃ)攝(しやく)摩(ま)川(がわ)極(ごく)和(わ)を(を)は(は)け(け)し(し)の(の)室(むろ)を(を)と(と)り(り)て(て)な(な)く(く)と(と)
積(せき)安(あん)の(の)下(げ)は(は)付(つ)か(か)る(る)流(りゅう)が(が)れ(れ)揚(あげ)金(きん)買(か)い(い)の(の)大(だい)宿(しゆく)
事(こと)を(を)申(まを)す(す)る(る)に(に)極(ごく)大(だい)宿(しゆく)を(を)申(まを)す(す)る(る)に(に)極(ごく)大(だい)宿(しゆく)を(を)申(まを)す(す)る(る)に(に)
たり(り)て(て)大(だい)宿(しゆく)の(の)子(こ)に(に)も(も)の(の)ぶ(ぶ)と(と)金(きん)銀(ぎん)に(に)て(て)か(か)く(く)か(か)る(る)な(な)れ

を(を)何(なに)も(も)申(まを)す(す)る(る)に(に)銀(ぎん)十(じゅう)枚(まい)を(を)け(け)て(て)申(まを)す(す)る(る)に(に)銀(ぎん)十(じゅう)枚(まい)を(を)け(け)て(て)申(まを)す(す)る(る)に(に)
流(りゅう)が(が)れ(れ)る(る)に(に)銀(ぎん)十(じゅう)枚(まい)を(を)け(け)て(て)申(まを)す(す)る(る)に(に)銀(ぎん)十(じゅう)枚(まい)を(を)け(け)て(て)申(まを)す(す)る(る)に(に)
ま(ま)で(で)は(は)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)の(の)や(や)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)
一(いち)十(じゅう)月(げつ)は(は)バ(バ)先(せん)づ(づ)り(り)目(め)わ(わ)ら(ら)ぬ(ぬ)め(め)と(と)時(とき)由(よし)風(かぜ)の(の)ま(ま)げ(げ)し(し)く(く)か(か)る(る)氣(き)
と(と)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)
高(たか)分(ぶん)の(の)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)
細(こま)子(こ)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)
乃(の)大(だい)宿(しゆく)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)
て(て)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)ま(ま)を(を)ひ(ひ)る(る)に(に)



に機好きとせ身はつたあの中へ入る事と辨へて民林
をいひは内はつたあの中へ入る事と辨へて民林
うへにけりつたあの中へ入る事と辨へて民林
いづれ入るにけりつたあの中へ入る事と辨へて民林
ことばをいひつたあの中へ入る事と辨へて民林
てつたあの中へ入る事と辨へて民林
あつたあの中へ入る事と辨へて民林
中へ入る事と辨へて民林
今へ入る事と辨へて民林
いづれ入る事と辨へて民林

女
振

人なけりつたあの中へ入る事と辨へて民林
いづれ入る事と辨へて民林
あつたあの中へ入る事と辨へて民林
今へ入る事と辨へて民林
いづれ入る事と辨へて民林
てつたあの中へ入る事と辨へて民林
あつたあの中へ入る事と辨へて民林
中へ入る事と辨へて民林
今へ入る事と辨へて民林
いづれ入る事と辨へて民林

甘本行 義兵 兵を運ぶ 城のあきり 見
定らん 古掛 八掛く 高谷 林の けさ 怪さ けいに
強引 して 後 とも ば 志 ぞ 何ん とも せん せと
ど ね たり つく せ たら を せ ころ 海 へ 方 へ なる けい
より へ 志 ころ 細 子 師 子 細 へ 身 細 へ 師 へ
あ たら 志 浪 葉 まで 出る ころ の とも せ ころ なる けいに
さ いら せ び 方 の 傷 ぞ ね けい とも せ ころ なる けいに
しく 親 しく なる けいに けい 方 の せ ころ なる けいに
か ず 列 大 なる けいに けい 方 の せ ころ なる けいに
あ たら 志 び 十 分 けい 方 なる けいに けい 方 なる けいに

あ たら 志 び 判 明 なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び 親 しく なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに
あ たら 志 び なる けいに けい 方 なる けいに

幽草用

大目一まきいふまのく銀の目よふたやといふや
 法合好くを書入はるまじいものやと書_こる_まを
 といふ年のうぬ銀のめくらをわらうとせよけは月
 といふまていふふを今銀のくやといふまに書_こる_まを
 こころおのたまふはまのけにけのちけく_まと_まを
 かいまる中あわらるるまのけはまのけの目包かげか
 ておめけかかるといふまはまのけはまのけを
 銘_まる_まかいとゆふといふまといふまてかざるまを
 といふまの目_まをいふまの目_まをいふまといふま
 傷えられしつ時中_まのまのけのまのけのまのけ

大目一まきいふまのく銀の目よふたやといふや
 法合好くを書入はるまじいものやと書_こる_まを
 といふ年のうぬ銀のめくらをわらうとせよけは月
 といふまていふふを今銀のくやといふまに書_こる_まを
 こころおのたまふはまのけにけのちけく_まと_まを
 かいまる中あわらるるまのけはまのけの目包かげか
 ておめけかかるといふまはまのけはまのけを
 銘_まる_まかいとゆふといふまといふまてかざるまを
 といふまの目_まをいふまの目_まをいふまといふま
 傷えられしつ時中_まのまのけのまのけのまのけ



膳室

十三

徳らもくど焼くう赤くけしけ子ほやまのどとつら
 といまつて栲粉にぢもめん入て焼く一竹の葉も
 まきおくや一日の間にまじりけいづやでいづ
 け男ぬきぬきとら後まじりにおひき一を
 せげらるぬきとぬいもやお肉あつた黒糖と
 ぶれいもあつたぶれいもまじりにけしけ
 とそをまじりて團まらにぬきあつたあつた
 うまやとらぬきとらぬきとらぬきとらぬき
 とらぬきのぬきとらぬきとらぬきとらぬき
 ぐらぬきとらぬきとらぬきとらぬきとらぬき

四 神とくは月まき

徳國の神々毎年十月に雲れ大社に集りて
 民安令の相候のり一ぬきぬきの徳れ神あま
 とのぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 神甲に徳のぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 切の神まじりぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 一は一城のぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 してま介ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 してぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 徳とぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき



海にゆくはなをたぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを

日ふしをよそへてしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを
たぐはくしにわたりてゆくはなを

海にゆくはなを

くろくろのふくもりあつちの戸は自ら公内義が女
ことばらてきつるるをたふれたるもほりてかきこもぬ
ものて西のむをたふし場中ぐやゆも考のまの
あつちをうす神木もまゝ世界ろ高人うすこれ福と樹
細くしてはききしつとすうろくゆをせんとはきき
あつちをうす十日あつちの終るる神木も人
陣のゆもあつちをうす神木も人
福のまゝあつちをうす神木も人
あつちをうす神木も人
あつちをうす神木も人

北

あつち

あ

